

# 大型海藻の耐砂性の評価

水産土木工学部

## 研究の背景・目的

最近の研究で、砂が薄く堆積する場が食害動物のウニの侵入を防ぎ、耐砂性のある大型海藻の生態的適地になっていることが明らかになった。本研究では堆砂域に生育するフタエモク等の大型海藻の耐砂性を評価し、その適地条件を明らかにする。

## 研究成果

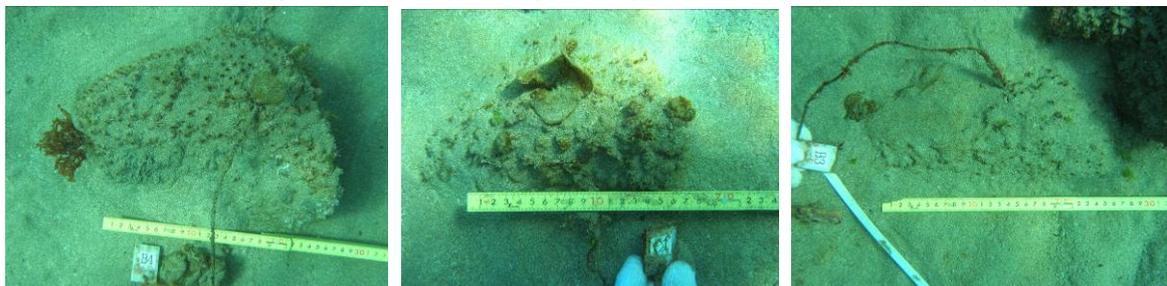
堆砂量と大型海藻の生残率との関係を野外で明らかにし、藻場が維持されるための堆砂条件を明らかにした。

## 波及効果

ウニのはびこる磯焼け場が全国的に広がっているが、その原因は不明であることが少なくない。本研究を含む一連の研究によってその原因の一つとして、岩礁への砂供給の減少が示唆され、沿岸での土砂管理から藻場を維持するという新しい視点を与えられる。また、ウニの食害に対して、砂を利用すること（たとえば、砂が薄く被るように、砂地に基質を設置）で、管理を要しない藻場造成手法の開発にもつながる。

(成果の一例)

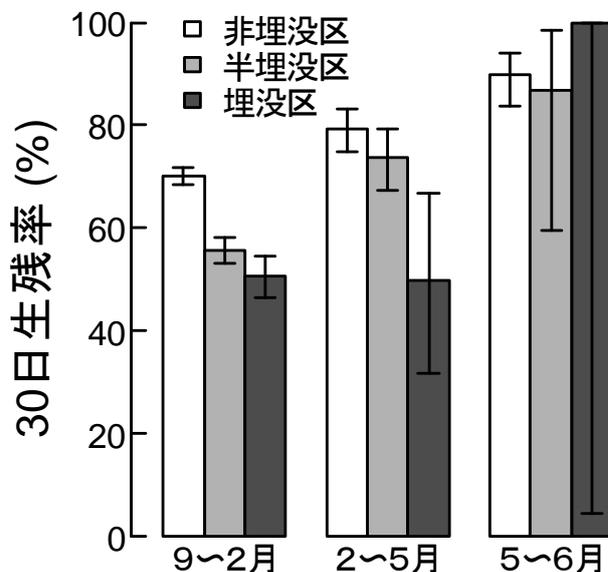
フタエモクが着生する大礫の堆砂量：砂による埋没度合で3段階に区分



非埋没区

半埋没区

埋没区



フタエモクは、小型の幼芽のときほど砂の影響を受けやすい。しかし、その30日生残率は、幼芽期（9～2月）であっても、砂が全面を薄く被っただけの礫上（非埋没区）では約70%と高く、また完全に砂に埋没した礫上（埋没区）でも50%ほどを維持した。

(生息環境研究チーム:川俣 茂)